

# 言語とコミュニケーションの哲学・倫理学

国際関係学科 **飯野 勝己**

●連絡先 E-Mail : k-iino@u-shizuoka-ken.ac.jp

## キーワード

哲学, 倫理学, 言語哲学, コミュニケーション,  
言語行為論

20世紀イギリスの哲学者・J.L. オースティンによって提起された「言語行為」の観点を中心にして、「言語とコミュニケーションの哲学」およびその展開としての倫理学的問題に取り組んでいます。

### ①「言語行為」という観点の理論的整備

言語行為という観点の中心に、「発語内行為」という概念があります。たとえば「私は明日会議に出席する」という発言の場合、たんなる予定の「言明」になることもあれば、他者に向けての「約束」になることもあります。これら「言明」や「約束」が発語内行為と言われるもので、コミュニケーション行為の中軸をなすものと考えられています。これらが何によって決定づけられるのか、なぜそれが重要なのか、といった今も決着をみていない問題に取り組む、コミュニケーション行為の原理や構造の解明を目指しています。

### ②上記に関連する倫理的問題の探究

たとえば「約束」が以後の自己の行動を拘束するように、言語行為（発語内行為）は実効的な力を持ちます。そのもっとも苛烈な現れが、「言葉の暴力」という問題です。ネットコミュニケーションの普及とともに新たな様相で社会に蔓延する言語的暴力という倫理的問題に、言語哲学の観点から取り組んでいます。

## アピールポイント

テーマに関連する著書・訳書  
飯野勝己『言語行為と発話解釈——コミュニケーションの哲学に向けて』勁草書房、2007年  
J.L.オースティン／飯野勝己訳『言語と行為——いかにして言葉でものごとを行うか』講談社学術文庫、2019年